

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



渾源県呉城郷のアンズ。昨年は凍害にあったが、今年こそ実ってほしい。

Contents

- 緑の地球ネットワーク第17回会員総会のご案内 … P 2
- 緑の地球環境センターの建設すすむ …………… P 3
- 春のワーキングツアーグラフィティ …………… P 4
- 復興に向けて～東日本大震災をこえて …………… P 6

2011.5

139

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

緑の地球ネットワーク 第17回会員総会のご案内

東日本大震災に見舞われた日本に、世界から救援の手がさしのべられました。これまで日本が協力してきたことのお返しだと、決して豊かとはいえない国々からも、救援物資が届きました。政府レベル、民間レベルをとわず、国際協力は無駄ではない、気持ちは通じているのだと実感しました。

大同からも、義援金がよせられました。武春珍所長によると、ほとんどが協力プロジェクトがある村からで、なかには小学生から預かったお金を先生が届けてくれた例もあるとか。正確な数はわからないけれど500人以上になるだろうということでした。ツアーで訪れた村の人たち、いっしょに木を植えた人たちが、以前来た人たちは大丈夫だろうか心配してくれたのでしょ

う。ありがたいことです。

この、顔の見える国際協力がGENのめざしてきたことのひとつですが、もうひとつは技術的な協力です。現地に自生する広葉樹を造林に取り入れる試みや、菌根菌や炭を利用して強い苗木を育てる方法の導入など、GENならではの活動は、実を結ぶまでにはもう少し時間がかかります。

新しく「緑の地球環境センター」の建設・運営が今春からはじまりました。また、今年は2年に1度の役員改選の年でもあります。ぜひ、会員総会に参加して、新しい動きにふれてください。

また、今回、記念講演に山田健さんをお迎えします。サントリー社員で作家でもある山田さんのお話も楽しみです。

【緑の地球ネットワーク

第17回会員総会】

●日時：6月11日（土）13時30分～16時40分

○記念講演：13時30分～15時

『水をはぐくむ森づくり』（仮）

◇講師：山田健さん（コピーライター、作家、サントリーホールディングス社員。著書に『遺言状のオイシイ罍』（ハルキ文庫）、『ゴチソウ山』（角川春樹事務所）など）

○会員総会：15時20分～16時40分

●場所：大阪市立弁天町市民学習センター講堂（大阪市港区弁天1-2-2-700 オーク2番街7階 Tel. 06-6577-1430 JR環状線/地下鉄中央線「弁天町」駅より直通路あり）

●総会終了後の懇親会は調整中です。会員の方には総会案内文書でご案内します。

●講演会・会員総会には会員以外でもご参加いただけます。

会員拡大にご協力ください！

緑の地球ネットワーク（GEN）の大同での緑化協力は20年目をむかえました。学校をつくるとか、病院をつくるとか、工業技術を移転するとかの協力とはことなり、木を植えて育てて森林を再生するという活動は長い時間がかかります。子育てと同様、次々と新しい課題がでてきます。

また、激しい経済発展の波にさらされている協力現地・大同での民間による緑化活動は、経済的自立を達成するまでにはまだ日本からの支えが必要です。人件費、燃料代をはじめとする諸物価の高騰が財政を圧迫しています。

それを支えるのは、GENの会員・協力者のみなさんです。いつもGENを応援して下さるみなさんに感謝申し上げますとともに、ぜひ周囲に協力の輪を広げていただきますよう、お願いいたします。最近では特に関西圏での会員の減少に悩んでいます。会員は、GENの運営を支える屋台骨です。GENの会員になってください。周囲の方に、話し

てみてください。こつこつ広げていきましょう。

ただ植えるだけではない、現地に即した技術面に重点をおいたGENの緑化協力は、日中両国で評価されています。黄土高原における持続性・多様性のある森林再生に、あなたの力を貸してください。

ご希望の方には、GENのリーフレット、郵便振替の用紙をお送りします。GEN事務所までご連絡ください。

助成金・委託事業 決まりました

○JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型/フォローアップ）として、「太行山地区における多様性のある森林再生事業」上限3千万円（2年間）の事業委託が決まりました。

○経団連自然保護基金から「多様性のある森林再生第5期」3,060,000円の助成が決まりました。

GREENなんでも勉強会

現在の里山がガガえる問題と 今後の対処

春のワーキングツアー、夕食後の任意参加の勉強会で収拾がつかなくなったのが、里山のお話。みなさん、いろいろな意見をお持ちでした。ナラ枯れも深刻化する昨今、このホットトピックをGREENなんでも勉強会でとりあげます。長く日本の里山とかかわってこられた大住さんから、どんなお話がきけるでしょうか。

●日時：7月4日（月）18時30分～20時30分

●場所：大阪市立総合生涯学習センター（大阪駅前第2ビル5F JR「大阪」駅、「北新地」駅、各線「梅田」駅）

●講師：大住克弘さん（森林総合研究所関西支所）

●参加費：700円

●定員：30人

●問合せ・申込み：GEN事務所まで



緑の地球環境センターの建設すすむ



小老樹の林だった敷地が……

新しい協力拠点・緑の地球環境センターの建設がはじまりました。大同市南郊区平旺郷の協力拠点「環境林センター」が大同市の生態公園として生まれ変わることになり、耿彦波市長が大同県周土庄鎮に無償で代替地を提供してくれたものです。

契約上の面積は18haですが、敷地内にあった墓地在改葬され、その部分も使えることになったため、およそ25haの広大な土地です。期限は30年間。

伸び悩んだポプラの立ち木がありました。昨秋以降に伐採・抜根され、ブルドーザーによる整地がすすみました。最大12mの高低差があるため、1



去年の秋までは小老樹の林だった



切り倒し、根を抜いて整地する



井戸掘りもすすめられた

枚にならずことはせず、10枚ほどの区画ごとに整地をしています。

敷地の高いところで井戸を掘りました。136mで水脈にたっし、1時間40tの水を確保できました。水質は良好です。地下に配水管を埋設し、効率的な灌漑を準備しています。

管理棟の建設もはじめました。レンガ建て平屋ですが、鉄筋コンクリートで補強しています。セメントが乾き、使えるようになるまでに2か月はかかりますので、仮にプレハブの建物を使用し、本建築完成後は倉庫として利用します。



管理棟の基礎

苗圃をつくとともに、新たに生態植林見本園と有用植物見本園（薬草を含む）の建設準備がすすんでいます。南天門自然植物園の成果を発展させ、持続可能で多様性のある森林再生のモデルをつくることで、環境教育などにも有効利用します。JICA草の根技術協力事業のフォローアップが決まっています。

昨年12月、中央政府の決定で山西省全域が改革試験区に指定され、従来の地下資源依存経済からの脱却がめざされることになりました。石炭に大きく依存してきた大同市でも大工業団地の建設が計画され、産業の多角化をめざしており、私たちの協力プロジェクトも大きな影響をうけます。それについては次回に。

(高見)



ツアーではアズの植え替えに汗を流した

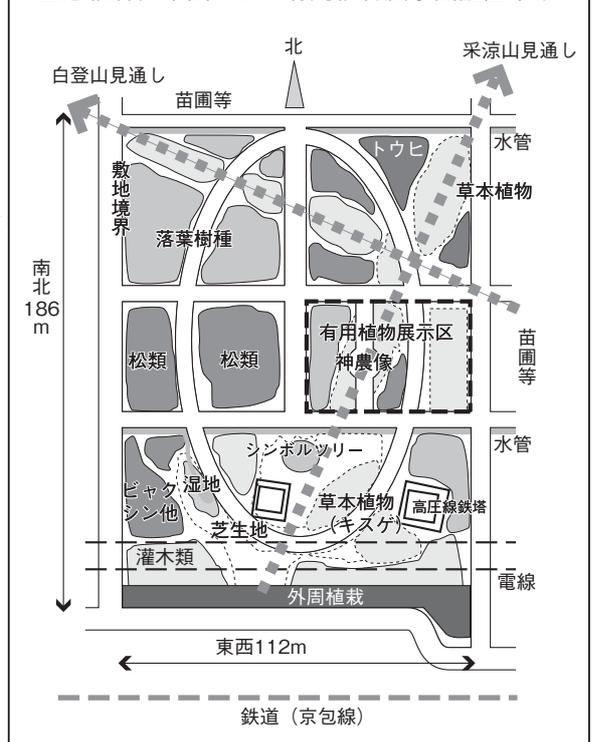


トウヒも引っ越し



見本園予定地を視察

生態植林見本園および有用植物展示園配置素案



春のワーキングツアー・グラフィティ

3.11の地震、津波、そして原発事故で、GEN事務所には「春のワーキングツアーどうしよう」という迷いが生じました。背中を押してくれたのは、関東の参加予定者の「やるんだったら行きますよ」という声でした。4月9日から15日、20人の参加で実施しました。行程もスムーズで、しっかり作業もできた、充実したツアーでした。

そのほか、3月26、27日にはJICA中国事務所とプレス、NGO等の視察（19名）、4月19日から28日には専門家派遣（7名）、4月24日には長春外国語学校第63届小学日本語班の同窓会（11名）が大同を訪れました。

写真を中心にをご紹介します。



JICA 中国事務所の視察団が南天門自然植物園で作業



天鎮県孫家店村小学校付属果樹園でアンズを植える GEN ツアー



孫家店村の子どもたち。水を運んだり、苗木を運んだり、くるくるとよく働く。ツアー参加者もまけてもらえません。午後からは小学校で交流タイム。歌と踊りでもてなしてくれた後は、サッカーと縄跳びで校庭を駆けまわりました。





トウモロコシの芯をつかって炭焼きをしました



かけはしの森から緑の地球環境センターへ、アンズを移植



采涼山のマツは年々大きくなります



天鎮県李二口の万里の長城



通訳の手配をしてくれる北京同心社社長の李建華さんと、ともに日本語を学んだ同窓生が、大同で同窓会を開いてくれました

マツ苗の菌根菌をチェックする小川顧問（左）

復興にむけて～東日本大震災をこえて

東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。GENを応援してくれている企業・労働組合にも、大きな被害にあわれたところがあります。大同でも、日本でも、心配している関係者がいるからと、無理をいって寄稿をお願いしました。特に、東北電力総連さんには、休む間もないなか、メッセージを寄せていただきました。お忙しいなか、ありがとうございます。

地域の復興に向けて

高橋 泰彦（イオンリテール労働組合
中央執行委員長）

このたびの東日本大震災で被災されたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。

イオンリテール労働組合から、震災当時の様子と現状をお伝えします。

労働組合では、震災当日の夜から専従役員を被災地へ派遣し、会社との協力体制のもと、イオングループ・同友店の従業員とご家族の安否確認をおこないました。残念ながら、5月現在で、お買い物中のお客さま1名とイオングループの従業員15名が亡くなり、依然行方不明の方もおられます。

震度5強に見舞われた幕張のイオン本社ではすぐに対策本部が立ち上がり、経営トップ、労働組合、イオングループが一体となり、物流・商品・従業員安否・行政への支援物資の手配など昼夜震災対応に取り組みました。「われわれは命にかかわる商品を扱っている、ライフラインだ」という社長の言葉と被災地のお客さまが営業再開を心待ちにしてくださっていることに、小売業の役割の大きさとそこで働く従業員ひとりひとりに支えられていることに改めて気付きました。

3月11日を境に日本は一変しました。東日本の太平洋沿岸部は未曾有の大震災に見舞われ、放射能の恐怖にさいなまれています。復興に向けイオングループで働く仲間たちが1日も早く「明るさと元気」を取り戻せるよう、これからも活動していきます。

そのために、「カンパ」「見舞金」や「緊急貸付」を実施していますが、一番の課題は雇用を守ることです。人は「地域」で「働く」ことで「暮らし」しているのだと改めて感じています。働くことで、地域社会全体がどう元気になるかとい

う視点で取り組みたいと考えています。

もうひとつは、被災した方々と「つながり」続けることだと思います。阪神大震災の際は、仮設住宅のお年寄りのためにひざ掛けを作り、届けることでつながり続けました。何がいつまで必要なか現段階ではわかりませんが、息の長い活動が必要になると思います。

津波に流された車が店舗に突っ込み、ぐちゃぐちゃになった売り場の屋上でなんとか入荷させた少しの商品を笑顔で販売する仲間を私は誇りに思います。絶対に負けません。労働組合らしく、私たちらしく、地域の復興に向けて活動していきます。

東日本大震災に関する寄稿

東北電力総連

日頃、東北電力総連の活動に関してご支援ご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

特に、私どもの活動として長年取り組んできました緑の協力隊の派遣受入れに関しご協力いただいておりますことに重ねて感謝申し上げます。

3月11日午後2時46分に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震は、千年に一度といわれる「マグニチュード9.0」の大地震と高さ10mを超える大津波によって、東北地方とりわけ岩手県・宮城県・福島県の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらし、大きな揺れによる被害とともに、広域にわたる未曾有の大震災として、あまりにも大きな悲しみと深い爪痕を残し、東北の地を一変させてしまいました。

今回の大震災で東北電力総連加盟組合においても、複数の事業所建物ははじめ多くの電力設備が甚大な被害を受け、また、組合員やその家族の人命、家屋、車両においても大きな被災を受けました。

大震災以降、早々に復旧作業に向けて全国の電力産業に働く多くの仲間のみなさまから早期復旧にご尽力をいただき、改めて厚く感謝申し上げます。また、全国各地各方面の団体や個人の多くがボランティアとして活動し、被災地の復興に向けてご尽力いただいていることに御礼と感謝申し上げます。

一日でも早い東北の復興に向けて、東北電力総連としても精一杯頑張ります。

東日本大震災の被災について

中田 裕（株式会社ローソン 地球環境ステーション）

この度の東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

多くの命が失われたことは深い悲しみです、哀悼の意を表します。一日でも早く皆さんが元気になられ、被災地が復興されることを願っております。

ローソンでも大きな被害を受け、店舗のオーナーさん、店長さん、クルーさんが10名ほどお亡くなりになりました。安否確認が取れていない方もおられます。阪神・淡路大震災などの経験から、店舗を営業することが地域の役に立つと考え、できる限り営業するように努めました。しかし、震災直後は建物の破損・停電・断水・商品供給ストップ等の理由で、営業を継続できたのは東北6県と茨城県の911店舗のうち6割でした。3月22日には9割以上が営業可能となりましたが、津波による流出や崩壊により20店舗が閉店を余儀なくされました。大規模改修が必要、福島第一原発30km圏内等の理由で休業中の店舗もあります。今後、周りに商店がなく、買い物にご不便な地域に、仮設店舗を順次開店する予定です。

各県の災害対策本部への救援物資も発生2日後の宮城県庁を皮切りに（➤）

黄土高原史話〈54〉

血で血を洗うドロドロの

今回より肩書が変わったが、文章は中身と表現力で読ますもの。とは言い状、キレもコクもなきこと、諸兄姉すでにご明察のとおりです。

さて、北魏の三代目は、道武帝・明元帝をついだ拓跋燾太武帝（在位 423～452）。明元帝の長子として 408 年に生まれたが、まだ在世中の偉大な祖父は、「体貌瓌異」なこの孫を見て、「奇としてこれを悦び」、「わが業を成す者は必ずやこの子なり」（『魏書』世祖紀）と言ったとか。

本シリーズ〈52〉、雲崗石窟中で最大の第 19 窟本尊は、雄偉な体躯・巨大な顔、仏像のイメージをはみ出して、勇猛な胡族の王者の風格あり。この像が道武帝をモデルにしたものとするならば、帝が常人と異なる体貌の嫡孫に自己をダブらせて見たのも、けだしむべなるかな。

史書にありがちな事後予言とも取れますが、祖父の野望を実現したのは、この太武帝にほかならない。

即位以来、崔浩をトップとする漢人官僚の智慧とノウハウ、鮮卑騎馬軍団の機動力・破壊力で、つぎつぎ各地を征服するが、その仕上げが 439 年の北

谷口 義介 (GEN 会員)

涼（甘肅省）の討滅。かくて華北の統一が完成し、五胡十六国時代は終焉する。

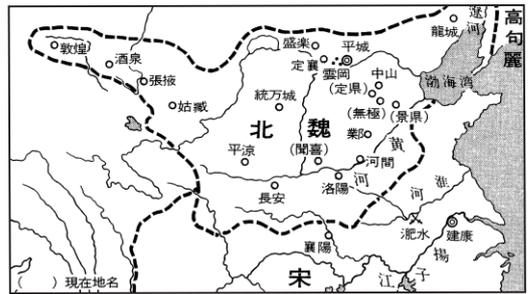
ところで、北魏王朝は三代つづけて仏教を尊信、平城（大同）とその周辺にはつぎつぎ仏寺が建てられたが、保護された仏教側に墮落の傾向も現れる。そのうえ連年の外征で一人でも兵士が欲しいのに、僧侶は兵役の義務がなく、飢饉のおりも農作業が免除です。そこで北涼を滅ぼす前年に、帝は、50 歳以上の僧しか認めない、という詔書を出す。つまりそれ以下の男子には兵役と耕作の義務が生じたわけで、これが排仏の第一段階。この政策変更の背後には仏教嫌いの崔浩の動きがあり、寇謙之（363～448）という道士を推挙して、帝を道教に改宗させ、仏教に打撃を与える策略です。440 年、帝号も年号も「太平真君」と道教風に改められ、446 年、道教は国教に格上げされる。逆に仏教側は弾圧を受け、長安では僧侶はすべて殺されて、仏像・仏典とも焼かれて灰となりました。このとき帝は外征中、平城にいた太子拓跋晃に同じ措置を命ずるが、仏教好きの太子はサボタージュ、僧侶の逃亡と仏像・仏典の隠匿を

たすけます。結局、平城でも寺院や塔は破壊されてしまうのだが。

ここに宦官の宗愛なる者が登場し、宮中にて大波乱を引き起こす。帝と太子の不仲につけ込んで、太子の側近を帝に訴え、これを斬らせてしまいます。この事件で帝は「震怒」し、太子は「憂いを以て薨」じるが（『魏書』宗愛伝）、後悔した帝は、太子の遺児の拓跋濬を自分のあとつぎと決めました。これを見た宗愛は、己れの身が危ういと、帝を殺してしまいます。ときに太武帝 45 歳。

宗愛は南安王拓跋余を即位させ、自分は大司馬・大將軍・太師を兼ね、最高実力者に納まります。だが「天性陰暴」なこの男、「権恣日に甚だしく」、新皇帝はその実権を奪おうと企てるが、宗愛これを察知して、逆に殺してしまいます。このことを知った近衛将校が他の役人に連絡し、皇孫拓跋濬を擁立し、宗愛をば誅殺する。

宦官宗愛は、二人の皇帝を殺した稀代の妖人。



（ノ）順次お届けしました。全国に生産拠点と配送網を持つコンビニエンスストアは、災害発生後の初期段階で調理せずに食べられるもの（おにぎりやサンドイッチ類）を含む救援物資を被災地の対策本部へお届けすることが使命であると考えています。関西と北海道から日本航空や自衛隊に依頼して空輸しました。

義捐金受付も 13 日から始め、3 月 31 日までに 5 億円を越える浄財をお預かりし 4 月 8 日に日本赤十字社にお届けしました。引き続き受付をおこなっており、5 月末にお届けする予定です。

ローソンの企業理念は、「私たちは“みんなと暮すマチ”を幸せにします」です。これからも全社一丸となって被災地の復旧・復興に努めていきます。(4月16日)

夏の黄土高原スタディツアー ご案内

今夏のツアーは、高山植物の花々が楽しめるカササギの森で薬草を採取するなど、植物好きの方にとくにおすすめです。

もちろん、村での交流も予定しています。また、今春から動きはじめているかも楽しみです。

- 日程：8月20日（土）～26日（金）
- 費用：160,000円（国際航空運賃、中国国内の交通費／食費／宿泊費を含む。GEN年会費〈一般＝12,000円、学生＝3,000円〉、燃油

特別付加運賃、空港使用料、旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含まない）※関空発着。全日空利用。羽田便利用希望の方はご相談ください。

- 訪問先：中国山西省大同市（北京経由）
 - 定員：35人程度
 - 最小催行人数：12人
 - 申込み締切：7月12日（先着順）
- 参加ご希望の方は GEN 事務所までご連絡ください。(株)マイチケットから案内をお送りします。



いっしょなかたち
 試してみよう！もうひとつの旅
 スタディツアー説明会

スタディツアー情報を「生」で「一気」にチェックできるチャンスです。NGOのスタンプを集めると往復航空券が当たる抽選会（16時30分から）に参加できます。GENも参加します。

- 日時：6月4日（土）13:30 - 17:00
 【第1部】参加者が語るスタディツアーの魅力・体験談（14時～15時）
 【第2部】直接聞いてみよう～スタディツアー説明会～（15時～17時）
- 会場：キャンパスプラザ京都（JR「京都」駅西側、ビックカメラ前）
- 参加費：無料
- 共催：龍谷大学ボランティア・NPOセンター／特定非営利活動法人関西NGO協議会／（株）マイチケット
- お問合せ：（株）マイチケット荒川さんまで（tel. 06-4869-3444 E-mail arakawa@myticket.jp URL http://www.myticket.jp/Study-Tour-seminar2.html）

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
 *当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

「脱・原発」そして「持続可能で豊かな社会」へ！
 環境市民の提案

「脱・原発」の必要性、可能性とともに、環境市民のめざす「環境のまちづくり」について事例をまじえて提案します。

- 日時：6月18日（土）14時30分～16時30分
- 場所：京エコロジーセンター（京都市伏見区深草池ノ内町13 京阪電車「藤森」駅、地下鉄・近鉄「竹田」駅）
- 講師：杵本育生氏（環境市民代表理事）
 ／堀孝弘氏（環境市民事務局長）
- 参加費：300円（環境市民会員無料）
- 定員：100人（先着順）
- 申込み：氏名・住所・電話番号、メールアドレスを明記して、電話・FAX・Eメールで下記環境市民事務局まで。メールタイトルは「総会同時セミナー参加申込」としてください。
- 主催・申込先：NPO法人 環境市民（〒604-0932 京都市中京区寺町二条下る呉波ビル3F tel. 075-211-3521 fax. 075-211-3531）

e-mail : life@kankyoshimin.org URL http://www.kankyoshimin.org)

※講演会の前に、環境市民第10回通常社員総会を開催します。13時から14時15分。どなたでも参加できます。

たまねぎのご案内

柑橘でおなじみの高知の田中さんから、たまねぎの案内です。辛みの少ない、おいしいたまねぎです。

- ◎たまねぎ（無農薬）
 ○たまねぎ 5kg 1,800円
 ※送料別途・関西630円、関東甲信越840円（20kgまで）
 ※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。
 【注文先】田中農園 田中隆一さん
 〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203（TEL/FAX 0887-29-2500
 E-mail : tanakan@sky.quolia.com）
 小夏もあります。お問合せください。